

平成 28 年度事業報告

平成 28 年度は、事業計画に掲げました『航空の安全文化および知識に関する更なる普及・啓発』『安全対策への取り組み』『より効率的な組織運営のための体制・機能強化』を重点項目として各種事業を遂行して参りました。

組織体制再構築の一環として教育訓練室を設置し、各種講習事業の強化・充実に努めております。また業務執行理事・支部長・委員長による合同会議を年 2 回定期的に開催し、情報共有を図りながら、より効果的に安全意識の浸透に寄与すべく公益活動の深化・拡大に努めております。

『事業別内容』

1. 航空の安全文化の普及と啓発（定款第4条1項）

- (1) 各地で開催される「空港祭」に参画し、飛行機工作教室を始め空の楽しみを伝えるトークショー等により航空を身近に感じていただく「スカイスクエア」を独自企画として開催しています。平成26年度は高松空港で開催しました。
- (2) 航空業界を目指す学生等の進路選択に有益な情報提供を行うことを目的として、「Yes I Can 航空教室」を本年度は9回（東京、大阪、北海道、宮城、愛知、沖縄、福岡、広島、愛媛）で開催致しました。また「航空機操縦士養成連絡協議会」裾野拡大ワーキンググループの取り組みの一環として、操縦士・整備士・製造技術者・客室乗務員志望者を対象にした女性限定の航空教室を併せて開催しました。
- (3) 広報活動の一環として、小学生を対象にシミュレーター体験搭乗（FTD）を、計2回開催しました。操縦を通じて空の魅力、仕事内容等を説明、また写真付きの搭乗証明書を発行し好評を得ました。
- (4) 近年その必要性が求められているリスクマネジメントやコミュニケーションスキル等を習得頂くことを目的とした「リスクマネジメント・コミュニケーションスキルセミナー」を1回開催しました。
- (5) パイロットと管制官の共通の理解を深めるため、安全で効率の良い運航と航空管制を題目に、10月にATSシンポジウムを開催しました。
- (6) パイロット及び航空関係者との意見交換の場として、航空気象シンポジウムを11月に開催し、低層ウィンドシアとその対策に関する講演とパネルディスカッションを行ないました。
- (7) 小型機航空機操縦士を対象に航空知識と最新の航空情報を伝え事故防止を図ること

- を目的として、小型航空機セーフティーセミナーを2月に開催しました。
- (8) 主に訓練生、就職活動中の方を対象に、訓練で学んだ基礎知識のレビューを目的としたブラッシュアップセミナーを計6回開催しました。

[公1事業]

空港祭り等への参加による安全文化の普及活動：スカイスクエア
シンポジウム：ATS／航空気象／乗員養成
イベント：Yes I Can 航空教室
その他の普及活動：リスクマネジメント・コミュニケーションスキルセミナー
／FTDを使用した操縦体験及びセミナー
／他団体への講師派遣

[公2事業]

安全技術の向上：小型航空機セーフティーセミナー／航空安全セミナー
／ブラッシュアップセミナー

2. 安全対策（制度と運用）（定款第4条2項）

- (1) 小型航空機の安全対策の強化について、「小型航空機等に係る安全推進委員会」が国土交通省により設置されました。当協会からも委員を派遣しており、平成28年度は2回開催され、委員会開催趣旨、安全対策のこれまでの取組状況等が報告されました。今後関連団体とも連携しながら新たな安全対策や安全啓発活動等の取組を推進して参ります。
- (2) 航空局通達国空乗第2077号に基づいた「航空安全講習会」を、定期的な訓練を行わない操縦士及び自家用操縦士に対し、全国20箇所にて開催し、安全意識の向上を図りました。
- (3) 航空局、関連諸団体が開催する委員会、検討会等に理事等を派遣し、経験に裏づけされた知見を持って助言、提言を行っています。
- (4) 安全対策、運航方式、身体検査基準の見直し、航空従事者学科試験問題等を検討するにあたり、安全の見地から運航に即した内容が反映されるよう努めました。

[公1事業]

航空局主催の委員会、検討会への専門委員の派遣
航空安全講習会の開催
航空医学適性セミナーの開催
参考資料の提供：「学科試験スタディーガイド」／「区分航空図」

3. 情報伝達と提供（定款第4条3項）

- (1) ホームページを全面的リニューアルし、特に会員ページにおいて従来の機関紙「PILOT」誌の内容を包含したタイムリーかつ双方向の情報配信を行っています。また、会員相互の情報共有を図るため「質問コーナー」や「掲示板」を設置し、運用することとしました。
- (2) 航空に関する基礎的知識の習得を目的に編纂された「TAKE OFF」及び「ヘリコプター操縦教本」は、航空界へ就職意欲のある方並びに航空の安全、運航技術を含む情報の配信を行っています
- (3) 機長昇格や操縦教育証明等の訓練審査に役立つ参考資料を作成しています。
（「PILOT'S GUIDANCE」、「インストラクター・ハンドブック」）
- (4) 公益団体の社会的負託に応えるべく機関誌「パイロット」誌を、特定の会員層を意識しない広報誌として位置づけ、加えて、メールマガジン等のツールを通じ、各種情報を航空に興味を持つ方々に広く提供しています。
- (5) NPO 法人AIM-Japan 編纂協会が編集するAIM（Aeronautical Information Manual）を年2回（日本語・英語版）発行しました。運航に必要な管制方式・手順、航空法、航空気象等、幅広い情報が集約されており航空界全般に広く普及しております。

[公1事業]

各種媒体を通じた情報提供（ホームページ・メールマガジン等）
航空の安全、技術を含む情報提供：「TAKE OFF」／「ヘリコプター操縦教本」
／「パイロット手帳」

[公2事業]

「AIM-J」編纂事業への支援
「パイロット」誌の発行
参考文献及び教材：「PILOT'S GUIDANCE」
／「フライト インストラクター ハンドブック」

4. 情報収集及び調査研究（定款第4条4項）

- (1) 各委員会は、航空界の安全に資する調査、研究を通じて操縦士の知識・技能の向上だけでなく、協会が有機的な集合体として社会に貢献していく活動を行っています。
- (2) 支部活動は、航空という分野を通じて地域社会の健全な発展に貢献しています。
- (3) 学科試験問題検討会は、当協会自主事業として過去問題の精査、新問題の提案等を行っています。
- (4) エコ活動については、航空ECO 川柳コンテストを実施し全国から多数のご応募を

頂きました。

- (5) FAI (Federation Aeronautique Internationale) の活動としては、航空スポーツ統括団体として諸外国の運営実態等を調査すると共に、国内で行われる競技会等への情報提供を行ない、また競技会等の記録を公認する体制を整えております。

[公1事業]

委員会活動：ATS／航空気象／航空医学／乗員養成検討
支部活動：北海道／東日本／中部／西日本／九州／沖縄
学科試験問題検討会

[公2事業]

委員会活動：エアライン／ジェネラル・アビエーション／ビジネス航空
／フライトテスト／航空安全／運航技術
国際機関を通じた情報把握・提供
：FAI（総会・分科会）／SETPシンポジウム(FT委員会)
国内航空スポーツ競技会の記録公認
外部関連機関の会議への参加

5. 技能習熟の支援（定款第4条5項）

- (1) 操縦技能のリフレッシュや一般操縦訓練・計器飛行方式等の教育訓練において、経験豊富な操縦士が担当し、特定操縦技能審査にも対応しております。
- (2) 航空局運航審査官、航空従事者試験官の協力を得て、機長養成講習会を各地で開催し、優れた機長の養成を支援することによって、公益法人として安全面からのサポートを行っています。平成28年度は、2回開催しました。
- (3) Single Pilot向けに運航における安全性の向上を目指しインシデントの防止を図るため、TEM/CRMの普及を目的にグラッドスクールを2回（9月大阪、12月東京）開催しました。

[公2事業]

飛行訓練装置（FTD）を使用した教育、訓練、審査
機長養成講習会
TEM／CRMセミナー

6. その他の事業（定款第4条6項）

- (1) 会員の福利厚生制度として、慶弔に関わる福利厚生費給付、所得補償保険、また昨年に引き続きライフプランをテーマに資産運用管理セミナーを実施しました。
- (2) 航空界に貢献した方々への表彰関連事業を実施しました。

[他1事業]

福利厚生費給付事業

所得補償保険

航空功労者への表彰関連事業

[参考]

- ・会員福利厚生規程に基づく弔慰金・結婚祝金の支払い

弔慰金：100,000円（1名） 結婚祝金：1,800,000円（90名）

- ・表彰規程に基づく褒章・表彰関係受章者一覧（敬称略）

秋季黄綬褒章：大井 道彰（全日本空輸） 龍神 恒夫（全日本空輸）

湯浅 孝志（スターフライヤー）（春季は受章者なし）

国土交通大臣表彰：島谷 公一、吉澤 賢一（以上 日本航空）

山本 浩一（日本トランスオーシャン航空）、池永 正憲、大塚 晴康、

丸井 祐一（以上 全日本空輸）

岡 恒、白石 茂（以上 Peach Aviation）

大阪航空局長表彰：香野 俊之（琉球エアコミューター）、吉田 雄二（三菱重工業）

（東京航空局長受章者なし）

一般財団法人 日本航空協会表彰

航空亀齡賞：大島 梓（ジェネラルアビエーション）

国際航空連盟 FAI エアスポーツメダル：上島 栄（ジェネラルアビエーション）

公益社団法人 日本航空機操縦士協会会長表彰：

坂本 克久（バニラエア）、藤澤 盛光（ジェットスター・ジャパンOB）

福島 英樹（全日本空輸）、中里 巧（三菱重工業）

笹原 富之（全日本空輸）、渡壁 貴美雄（全日本空輸）

公益社団法人 日本航空機操縦士協会 会長奨励賞：

林 伸太郎、出戸 康貴、吉澤 稜（以上 航空大学校）、山本 晃樹（崇城大学）

川崎 誠（東海大学）、村上 悟（桜美林大学）、宮島 翔麻（法政大学）

『会員情報』 会員数（平成 28 年度末現在）

会員種別		会員数	
正会員	定期	3,369	5,101
	事業用	1,065	
	個人	667	
終身会員		1,038	1,038
賛助会員	個人	160	219
	法人	59	
準会員		659	659
合計			7,017

【参考】

公益社団法人である本協会の事業は、公益目的事業とその他事業に分類され、更に公益目的事業は事業の性格により、2つに分類され、内閣府より認定を受けています。

航空の安全文化の普及と諸般の調査研究を対象としている事業・・・公 1
運航の安全に資する知識の向上と情報提供及び調査研究を対象 としている事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・公 2
本協会の目的を達成するために必要な事業・・・・・・・・・・・・・・・・他 1

附属明細書

平成 28 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。